

ミツカン水の文化センター

公開中のホームページコンテンツ

ミツカン水の文化センターでは、ホームページでもさまざまな情報を発信中です。里川文化塾の「開催レポート」やルートマップ&ガイド「自分でも開催！里川文化塾」、魅力あふれる独自の活動を行なう人や場所を訪ねる「水の風土記」などから最近公開したページをご紹介します。

里川文化塾「開催レポート」 <http://www.mizu.gr.jp/bunkajuku/houkoku/>

「使いながら守る水循環」を学ぶ「里川文化塾」を開催しています。当日参加くださった方々以外にもその内容を知っていただくために、終了後に「開催レポート」を公開しています。関連資料・史料や写真も掲載しています。

第22回里川文化塾 (2016年1月公開)

関宿で学ぶ、江戸時代の舟運と産業

江戸時代、利根川と江戸川の分岐点（江戸川流頭部 [りゅうとうぶ]）の城下町「関宿」（せきやど）は舟運による物流と産業の要衝でした。千葉県野田市の関宿を訪ね、河川交通の移り変わりとともにあったまちの歴史を知り、川のそばに住んだ昔の人々の暮らしに思いを馳せました。

日時：2015年11月7日（土）9:30～16:45

会場：千葉県立関宿城博物館（千葉県野田市関宿三軒家 143-4）

フィールド：千葉県野田市・中之島公園

茨城県猿島（さしま）郡境町利根川境河岸（かし）

講師：尾崎 晃（おさき あきら）さん 千葉県立関宿城博物館 主任上席研究員

参加人数：23名



1927年（昭和2）竣工の関宿水閘門（すいこうもん）を見学



茨城県境町から「高瀬舟さかい丸」に乗船。利根川と江戸川を巡った

第23回里川文化塾 (2016年2月公開予定)

江戸の染色文化と河川

～歴史と工房体験で知る江戸の染色～

東京都新宿区の地場産業に挙げられている「染色」。今も高田馬場から落合にかけて、染色家の方々が活動されています。都心である新宿に染色業が根つき、伝統文化として受け継がれてきた理由には、染色に欠かせない水、そして神田川との深いかかわりがありました。

日時：2015年12月17日（木）10:30～15:30

会場：早稲田奉仕園 You-I ホール（東京都新宿区西早稲田 2-3-1）

東京染ものがたり博物館（東京都新宿区西早稲田 3-6-14）

講師：大松 駿一（おおまつ さいち）さん

NPO法人 水都東京を創る会 理事長／神田川ネットワーク 会員

富田 篤（とみた あつし）さん

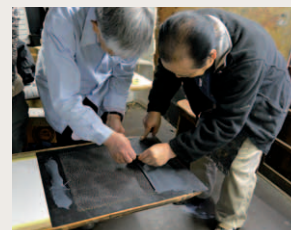
東京染小紋 伝統工芸士／株式会社 富田染工芸 代表取締役／

東京都染色工業協同組合 副理事長／新宿区染色協議会 会長

参加人数：21名



神田川の歴史と水利用について講義を受ける（第一部）



「東京染ものがたり博物館」で行なった染色体験（第二部）

自分でも開催！里川文化塾

<http://www.mizu.gr.jp/bunkajuku/know-how/>

「里川文化塾」の開催で培ったフィールドワークなどの体験型イベントのノウハウをまとめました。開催当日に巡ったルートマップや見所を解説したガイドを、PDFとしてダウンロードできます。これを片手に、実際に歩いてみてはいかがでしょうか。

07 新富町から佃島の埋め立てられた運河を巡る

第20回里川文化塾 埋め立てられた運河から水の記憶をたどる

08 横浜・和泉川の水辺を歩く

第21回里川文化塾 和泉川で学ぶ 多自然川づくり実践のポイントと継承の課題



(2016年1月公開)

ルートマップとガイドは、基本的に里川文化塾を実施した時点の情報をもとに作成しています。ご了承ください

水の風土記

<http://www.mizu.gr.jp/fudoki/>

魅力あふれる独自の「水の文化」を培っている「人」や「事・場」を訪ね、研究や活動を紹介します。「水の風土記」。人にフォーカスするのが、〈水の文化 人ネットワーク〉、事（こと）や場（ば）を掘り下げてレポートするのが〈水の文化 事・場（ことば）ネットワーク〉です。

【人ネットワーク 最新インタビュー】 (2015年11月公開)

石積みの修復技術を後世に伝える

～徳島県の「石積み学校」プロジェクト～



真田 純子 さん
さなだ じゅんこ

東京工業大学 大学院社会理工学研究科・工学部 准教授

棚田や段畑（だんばたけ）の斜面の崩壊を防ぎ、土砂を留めるために設けられる「石積み」は、水を一時的に溜めることで治水に役立ち、山間部では水の涵養も支えています。失われつつある石積み修復の工法や技術を伝えようとする真田純子さんに、石積みの現状や技術継承の問題についてお聞きしました。



段畑の見事な景観が残る「高開（たかがい）の石積み」（徳島県吉野川市）

石積みの修復作業。いったん石を取り除き、再び積み直す



水の文化 Information

■「水の文化」に関する情報をお寄せください

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください。

<http://www.mizu.gr.jp/>

■水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

■里川文化塾レポート詳細版は、ホームページで

里川文化塾のレポート詳細版は、参加できなかった方も楽しめる内容です。今後の企画についても、順次ホームページでご案内します。ご注目ください。

メールマガジン配信中！

「里川だより」

ミツカン水の文化センターは、時期やテーマに沿ったさまざまな「水の文化」にかかわる情報を盛り込んだメールマガジン「里川だより」を配信しています。

「里川だより」では、機関誌の発行や里川文化塾の募集告知など、センターからの情報をいち早くお届け。1人でも多くの人にご覧いただきたいと考えております。

メールマガジンの配信をご希望の方は、タイトルに「水の文化センターメルマガ配信希望」と記載して「tokyo-office@mizu.gr.jp」までメールをお送りください。

ご連絡をお待ちしております！

編集後記

その土地ならではの保存食は、家庭で食べられているのだろう。取材では、お店にはないメニューを頂いた。やはり地域や家庭のおいしい食事は魅力的だ。子供や孫がそうした食事は喜ばず、外で食べるメニューをご馳走と思うという話を聞いた。わからないではないが、保存食とともに地域や家庭の味が受け継がれることが大切に思う。(後)

本枯れ節の取材後に値段を知り、安くて驚愕した。それでも頑張る生産者のお陰で、先人達が繋いできた美味を味わえる幸せに感謝。子供達に与えたら、初めは「木」だと勘違い。削ってみると奪い合って食べていた。時々は削り、この味を繋ぎたい。(松)

便利な保存技術の登場に、私達は随分甘えていたのだと感じた。特に単身者など、生の食材を上手く使いきれない人にとって、保存食は大きな助けになると思う。もつこの文化が注目されて欲しいし、これからは自分も注目して、使っていきたいと思った。(原)

受け継いだ保存技術その時代に合わせて引き継ぎ、次世代へとつなぐ。自然を相手につないでいくことは簡単ではないが、プライドを持ってバトンを渡そうとしている人たちがいる。日本の食べものに関する保存技術をより多くの人に知ってもらいたい。(吉)

食べものというテーマ柄、おいしい食事を味わえたのもさることながら、どれも素敵な写真ばかり。取材では地道で過酷な作業であっても、保存食の伝統をつないでいく生産者の誇りと信念を肌で感じた。当然カメラマンの腕が引き立てているのは確かだが、そういった思いが美しい写真としてにじみ出ているのだと感じずにはいられない。(力)

「水を抜く」食べものを追って各地を巡りました。印象深い取材ばかりでしたが、今は名前もわからぬ「誰か」がウマツラハギを「偶然」みりん干しにしたことでひもの銀座ができた聞き、ハッとしました。耕地が狭く漁業でしか生きる道がなかったから生まれた知恵と工夫が、網代の魚食文化をさらに分厚いものにしたのです。(前)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化 第52号

ホームページアドレス

<http://www.mizu.gr.jp/>

発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中埜ビル 4F

株式会社 Mizkan Holdings

Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

お問い合わせ

ミツカン水の文化センター 事務局

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-11-3 中銀 NM・5F

Tel. 03 (6264) 9471 Fax. 03 (6685) 7596

発行日

2016年(平成28)2月

企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授

古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会

陣内秀信 法政大学教授

鳥越皓之 大手前大学副学長

中庭光彦 多摩大学教授

制作

後藤喜晃

松本裕佳

小林夕夏

原田朱野

吉田奈保子

編集製作

前川太一郎 編集

中野公力 デザイン・撮影

執筆

佐々木 聖 (pp.6-9, pp.12-15, pp.24-27)

手塚ひとみ (pp.28-31)

開 洋美 (pp.10-11, pp.16-23)

前川太一郎 (pp.32-34, pp.38-39)

撮影

川本聖哉 (pp.4-5, pp.20-23, pp.28-31, pp.38-39)

中野公力 (pp.45-49)

藤牧徹也 (pp.6-9, pp.12-19, pp.24-27, pp.32-34, pp.40-44)

印刷

中埜総合印刷株式会社

※禁無断転載複写